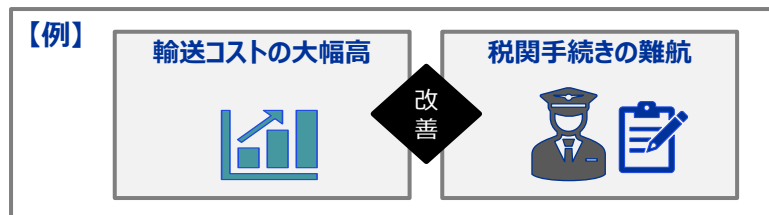


- 国際情勢の悪化や気候変動による国際的なサプライチェーンの混乱が起きている中、安定的なグローバルサプライチェーンの確保に向けて、国際物流の多元化・強靱化を図る観点から実証輸送を実施し、新たな国際物流ルートの開発や、既存の成果を発展・進化させるための継続的・集約的な国際物流ルートの活用を目指す。

【実証輸送の実施条件】 ○令和8年10月～令和9年1月を目途に実施するものであること。
○日本を発地又は着地、あるいはトランジットポイントとし、以下のいずれかの条件にて輸送するものであること。

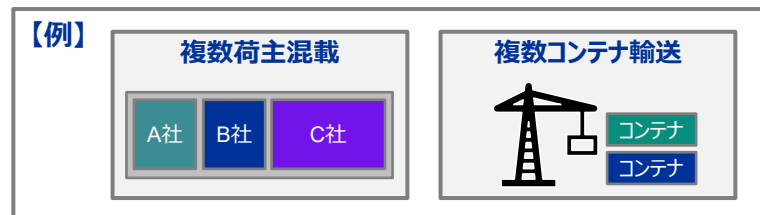
①過去に検討したBCPルートの深化

過去に検討を行ったBCPルート等で抱えている課題（コスト高、所要日数、制度上の制約等）に対する改善を図る実証



②既存ルート活用的高度化

定期運行、複数荷主による共同輸送、複数コンテナの輸送など、既存ルートの継続的・集約的な活用モデルの検証



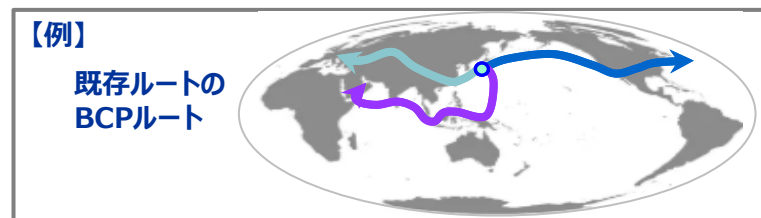
③日本をトランジットポイントとした新たなルート開発

日本をトランジットポイントとした国際複合輸送ルート（例：Sea & Air）の開発・検証



④既存ルートに代わる新たな国際物流ルートの開発

既存ルートのBCPルートとなり得る特別な輸送提案などで新規性が認められるもの



【留意事項】 ○本実証輸送の実施に当たり、一輸送につき原則として100万円を調査協力に係る費用として支出するが、複数コンテナの場合は 2 コンテナまでを上限に200万円を支出する。ただし、応募件数が少ない場合、支給金額の調整を行う可能性がある。